

基本事業コード	20040001	担当課所名	文化財保護課
基本事業名	文化財継承事業		
総合振興計画 の位置づけ	基本柱(章)	4	にぎわいと感動を呼ぶ「交流のまち」
	政策	3	心動かす芸術文化のまちづくり
	施策	1	地域文化の支援
総合振興計画 112 ページ			

基本事業の概要	指定無形民俗文化財50件を保護保存するため、保持団体21団体に対して後継者養成支援の補助金交付や秩父歌舞伎指導者研修会の会場確保の支援、あるいは必要に応じて民俗行事の実態調査を行なう。
---------	--

対象	市内の文化財・無形民俗文化財保持団体の関係者
意図 (対象をどのようにしたいか)	文化財の現状を後世に残し、変わることなく保全・継承できるように計らう

基本事業指標	指標の算式	単位	23年度	評価年度(24年度)		26年度	他団体の指標(数値)
			過年度実績値	目標値	実績値	目標値	
公開・継承を実施している無形民俗文化財保持団体	(公開・継承している団体)÷(保持団体)	%	98.	100.	98.	100.	

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

枝番号	事務事業名 (★=実施計画事業)	指標			24年度	単位	事務事業評価 26年度以降の 事業の方向性 コスト 成果	重点化
		事業費(円)			目標値(上段)			
		23年度決算額	24年度決算額	25年度予算額	実績値(下段)			
01	★ 文化財記録事業	指標	映像記録作成実施文化財件数	1.	1.	件	D	
			0 3,554,250 0	1.	1.		完了 完了	
02	無形民俗文化財後継者育成事業	指標	公開・継承中止を前提に補助を打ち切った団体	0.	1.	団体	A	◎
			675,000 690,000 690,000	1.	1.		維持 維持	
03		指標						
04		指標						
05		指標						
06		指標						
07		指標						
08		指標						
09		指標						
10		指標						
11		指標						
12		指標						
13		指標						
14	秩父歌舞伎指導者研修会事業	指標	秩父歌舞伎指導者研修会参加者数	0.	0.	人		
			0 0					

(参考) 最終予算額(円)		675,000	4,275,000	
事業費の合計(円) (A)		675,000	4,244,250	690,000
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他特定	0	2,000,000	0
	一般財源	675,000	2,244,250	690,000
正規職員	業務量	0.40人	0.40人	
	人件費(B)	2,376,902	2,408,200	
臨時職員 (事業費に含む)	業務量	0.00人	0.00人	
	人件費	0	0	
事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B)		3,051,902	6,652,450	

【重点化欄】

◎: 評価時点以降の事業の方向性(コスト・成果)の状況から、特に重点化する必要がある事業(1つ以内)

○: 重点化する必要がある事業(2つ以内)

成果の方向性	拡充	×	C, B	B, C	C
	維持	×	B	A	×
	縮小	×	C	×	×
	休廃止	D	×	×	×
	皆減	縮小	維持	拡大	コスト投入の方向性

◆評価◆

評価の視点	左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 基本事業の意図は適切か？また基本事業指標と目標値の設定は適切か？実績値に問題はないか？
基本事業指標の分析	当事業は、環境変化や少子高齢化により後継者不足が大きな問題となっている昨今において、市内に点在する指定無形民俗文化財50件が、絶えることなく的確に継承されるための事業であり、意図・指標は適切である。ただし、既に後継者不足から公開を中止している無形民俗文化財が1件あることから目標値は達成できなかった。昨今の状況から公開・継承を中止する団体が今後増加する危険性も高い。これらの団体が無形民俗文化財の公開・継承を再開できるような環境づくりが必要である。
基本事業を構成する事務事業の妥当性	基本事業指標を達成するために構成した事務事業に問題点はないか？ 無形民俗文化財を支える人達(保存会等)が、活動する上で障害となる要因の一つである経費面を支援するために設定した補助事業は、妥当であると考ええる。
実施主体の妥当性	行政(国・県・市)・企業・市民・NPO等それぞれの実施主体は適切か？ 指定文化財を保護保存するため、法や条例により国や自治体が文化財保護に努める義務があるので、市が実施主体であることは妥当と考ええる。

↓ Action

◆改善提案◆		
新規に実施する事務事業名	事業の概要	
文化財記録事業	当初の計画どおり事業が完了したため	
表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、重点化する事業として選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述 無形民俗文化財は、過疎化や少子高齢化等の影響により、全国的に後継者不足による継承及び公開の休止の危機に瀕している状況にある。このことから、文化財継承のための環境を整えるため。		
改善のため休廃止する事務事業名	休廃止する理由	
この基本事業の意図を達成するための、具体的な改善提案(改善内容、始期、終期等)		昨年度左欄に記入した改善提案(上)とその実施状況(下)
予算を伴わず早急に実施可能な改善提案		
短期的(1~2年以内)に実施可能な改善提案		02事業(秩父歌舞伎指導者研修会事業)の廃止に伴い予算の削減をした。 事業の廃止及び予算の削減を行い、正和会の自主事業として新たに平成秩父座を開始した。
中長期的(概ね3~5年)に実施可能な改善提案		
改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー		

基本事業執行責任者 (担当課長名)	新井 和美	電話番号 0494-22-2481
----------------------	-------	----------------------

基本事業コード	20040002	担当課所名	文化財保護課
基本事業名	文化財活性化支援事業		
総合振興計画 位置づけ	基本柱(章)	4	にぎわいと感動を呼ぶ「交流のまち」
	政策	3	心動かす芸術文化のまちづくり
	施策	1	地域文化の支援
総合振興計画 112 ページ			

基本事業の概要	無形民俗文化財に指定された民俗行事に補助金を交付するとともに、若い後継者が伝統芸能を発表する場を催すことで、地域文化の活性化、地域住民の交流並びに地域文化の担い手の育成を促し、文化財の保護保存を行なう。
---------	---

対象	市民・秩父を訪れた人々及び市指定無形民俗文化財
意図 (対象をどのようにしたいか)	文化財に係る活動を活性化する。

基本事業指標	指標の算式	単位	23年度	評価年度(24年度)		26年度	他団体の指標(数値)
			過年度実績値	目標値	実績値	目標値	
民俗芸能大会に出演実績のある団体		団体	10	13	10	13	

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

枝番号	事務事業名 (★=実施計画事業)	指標			24年度	単位	事務事業評価 26年度以降の 事業の方向性 コスト 成果	重点化
		事業費(円)			目標値(上段)			
		23年度決算額	24年度決算額	25年度予算額	実績値(下段)			
01	民俗芸能大会公演事業	指標	民俗芸能大会観覧者数	200	200	人	B	
		127,100	164,450	177,000	168		維持 拡充	
02	★ 指定民俗文化財民俗行事活動補助事業	指標	公開中止により、補助金を交付しなかった団体	0	0	団体	A	◎
		11,550,000	11,550,000	11,550,000	0		維持 維持	
03		指標						
04		指標						
05		指標						
06		指標						
07		指標						
08		指標						
09		指標						
10		指標						
11		指標						
12		指標						
13		指標						
14		指標						

(参考) 最終予算額(円)		11,697,000	11,727,000
事業費の合計(円) (A)		11,677,100	11,714,450
財源内訳	国庫支出金	0	0
	県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他特定	0	0
	一般財源	11,677,100	11,714,450
正規職員	業務量	0.30人	0.30人
	人件費(B)	1,782,676	1,806,150
臨時職員 (事業費に含む)	業務量	0.00人	0.00人
	人件費	0	0
事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B)		13,459,776	13,520,600

【重点化欄】

◎: 評価時点以降の事業の方向性(コスト・成果)の状況から、特に重点化する必要がある事業(1つ以内)

○: 重点化する必要がある事業(2つ以内)

成果の方向性	拡充	×	C, B	B, C	C
	維持	×	B	A	×
	縮小	×	C	×	×
	休廃止	D	×	×	×
	皆減	縮小	維持	拡大	コスト投入の方向性

◆評価◆

評価の視点	左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 基本事業の意図は適切か？また基本事業指標と目標値の設定は適切か？実績値に問題はないか？
基本事業指標の分析	本事業は地域の無形民俗文化財の支援をすることにより、地域文化の活性化と次代の担い手の育成を目的とする事業である。01は基本的に若い後継者に地域の伝統芸能を披露してもらう事業であり、裏を返せばその地域の伝統文化の継承環境が整備され、地域の活性化が図れている団体に出演をお願いすることから、基本事業指標として設定した。しかし、今年度は、これまでの実績値を上積みすることができなかった。
基本事業を構成する事務事業の妥当性	基本事業指標を達成するために構成した事務事業に問題点はないか？ 振興計画の中には「にぎわいと感動を呼ぶ『交流のまち』」がある。本事業はこれを推進する一環として、文化財に指定された秩父市内の主な民俗行事(祭礼等)を支援するものであり、妥当性は非常に高いと言える。しかし、基本事業指標を達成するためには、事務事業の内容について、改善等が必要な段階にきていると考えられる。
実施主体の妥当性	行政(国・県・市)・企業・市民・NPO等それぞれの実施主体は適切か？ 補助金の支出や公開の場の提供など、文化財保持団体を支援する事業であり、このことは文化財保護法をはじめとする文化財関係法令に順じている。振興計画も踏まえて、行政が実施主体であることは妥当である。

↓ Action

◆改善提案◆

新規に実施する事務事業名	事業の概要
表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、重点化する事業として選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述 重点化した事業の補助対象はいずれも秩父市を代表する民俗文化財であり、その保護保存及び継承を支援することは地域文化の促進に大きく寄与するため。	
改善のため休廃止する事務事業名	休廃止する理由
この基本事業の意図を達成するための、具体的な改善提案(改善内容、始期、終期等)	
予算を伴わず早急に実施可能な改善提案	<p>民俗芸能大会は、これまで学校の年間行事がほぼ終了する3月に開催してきたが、逆に学校における伝承活動が終わってしまった。受験を挟むことで特に中学生の生徒たちにはプランクができることから、出演できる団体が自然と限られ、固定化する傾向にある。このことから、開催時期の見直しや新たな出演団体の発掘など、今年度同様に新たな動きを入れて、誘客促進を図りたい。</p> <p>昨年度左欄に記入した改善提案(上)とその実施状況(下) 民俗芸能大会については、テーマ設定や有益な周知・宣伝方法など、もう一度根本的な部分から再考を図りたい。</p> <p>今年度は、チラシ・ポスターの配布先の拡大や会場内での出演団体に関する展示など、新たな試みを行なった。来場者には概ね好評であったが、来場者数は昨年度とほぼ変わらなかった。</p>
短期的(1~2年以内)に実施可能な改善提案	
中長期的(概ね3~5年)に実施可能な改善提案	
改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー 多くの市民・来訪者に、文化財の周知と関心を深めることができる。また、出演団体についても多くの観客に見られることで、良い刺激になるとと思われる。	

基本事業執行責任者 (担当課長名)	新井 和美	電話番号 0494-22-2481
----------------------	-------	----------------------

基本事業コード	20040003	担当課所名	文化財保護課
基本事業名	文化財活用公開事業		
総合振興計画 位置づけ	基本柱(章)	4	にぎわいと感動を呼ぶ「交流のまち」
	政策	3	心動かす芸術文化のまちづくり
	施策	2	歴史的資源の活用
			総合振興計画 114 ページ

基本事業の概要	文化財展や文化財教室をはじめとして、文化財や秩父の歴史・文化に寄与するものを活用することにより、文化財や伝統文化の公開及び次代に伝える場を作る。
---------	--

対象	市民・秩父を訪れた人及び文化財の見学者
意図 (対象をどのようにしたいか)	秩父の歴史や文化、文化財について知ってもらい、文化財への理解・関心を深めてもらう

基本事業指標	指標の算式	単位	23年度	評価年度(24年度)		26年度	他団体の指標(数値)
			過年度実績値	目標値	実績値	目標値	
文化財企画展及び旧秩父駅舎 入場者数		人	1,625	2,000	2,067	2,000	
文化財教室・講座参加者数		人	179	150	157	150	

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

枝番号	事務事業名 (★=実施計画事業)	指標			24年度	単位	事務事業評価 26年度以降の 事業の方向性 コスト成果	重点化
		事業費(円)			目標値(上段)			
		23年度決算額	24年度決算額	25年度予算額	実績値(下段)			
01	文化財関係冊子刊行頒布事業	指標	市文化財関係刊行物の頒布売り上げ	50,000	円	A		
			0	0	459,200	維持	維持	
02	指定文化財説明板設置事業	指標	文化財説明板の新規及び修復工事件数	2	件	A		
			423,150	347,550	540,000	3	維持	維持
03	文化財管理公開事業	指標	復元招木古墳・久那氷雨塚古墳草刈作業他整備回数	4	回	A		
			159,480	138,480	230,000	4	維持	維持
04	「秩父市の文化財展」事業	指標	文化財展の入場者数	800	人	A	◎	
			43,692	35,095	154,000	976	維持	維持
05	夏休み文化財教室事業	指標	縄文土器づくり教室参加者延べ人数	70	人	A		
			32,240	35,550	38,000	105	維持	維持
06	文化財関係講座事業	指標	文化財関係講座・教室の開催数	5	回	B	○	
			0	0	0	3	維持	拡充
07	「武甲山図画・作文展」事業	指標	武甲山展作品(図画・作文)数	400	点	C		
			343,173	370,562	640,000	431	縮小	拡充
08	★「秩父祭屋台6基」国指定50周年事業	指標	国指定50周年記念事業実施における事故等発生件数	0	件	D		
			1,000,000	28,222,573	0	0	完了	完了
09		指標						
10		指標						
11		指標						
12		指標						
13		指標						
14		指標						

(参考) 最終予算額(円)	2,625,000	29,855,000	
事業費の合計(円) (A)	2,001,735	29,149,810	
		1,602,000	
財源内訳	国庫支出金	0	0
	県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他特定	1,251,000	366,900
	一般財源	750,735	28,782,910
		1,552,000	
正規職員	業務量	0.40人	0.40人
	人件費(B)	2,376,902	2,408,200
臨時職員 (事業費に含む)	業務量	0.00人	0.00人
	人件費	0	0
事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B)	4,378,637	31,558,010	

【重点化欄】

◎: 評価時点以降の事業の方向性(コスト・成果)の状況から、特に重点化する必要がある事業(1つ以内)

○: 重点化する必要がある事業(2つ以内)

成果の方向性	拡充	×	C, B	B, C	C
	維持	×	B	A	×
	縮小	×	C	×	×
	休廃止	D	×	×	×
	皆減	縮小	維持	拡大	
		コスト投入の方向性			

◆評価◆

評価の視点	左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 基本事業の意図は適切か？また基本事業指標と目標値の設定は適切か？実績値に問題はないか？
基本事業指標の分析	本事業は、文化財を活用・公開することによって関心・理解を深めてもらうことを意図しているが、これは文化財保護法の理念に者づくものであり、適切である。基本事業指標は目標値を上回っているが、各事務事業の中には目標値を下回ったものもあり、それが基本事業指標に関わるものもある。事業の進め方に改善が必要であると思われる。 なお、基本事業指標の中で、事務事業の見直しにより他の基本事業に移った内容が含まれていることから、来
基本事業を構成する事務事業の妥当性	基本事業指標を達成するために構成した事務事業に問題点はないか？ 構成する事務事業は、いずれも秩父の歴史・文化あるいは文化財について周知し、関心・理解を深めてもらうためのものであることから、妥当性は高いと言える。ただし、07については、その事業内容や対象物（「武甲山植物群」は横瀬町名義での国指定天然記念物）、他の類似事業などとの兼ね合いなども踏まえて、事業主体の部分から検討する必要があると思われる。
実施主体の妥当性	行政（国・県・市）・企業・市民・NPO等それぞれの実施主体は適切か？ それぞれの事務事業の中で、可能な部分については秩父市シルバー人材センターなどに既に委託を行なっている。本来であれば行政が主体となって事業を行なうべきものであり、適切である。

↓ Action

◆改善提案◆

新規に実施する事務事業名	事業の概要	
表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、重点化する事業として選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述 「秩父市の文化財展」事業は、指定文化財及び歴史・文化にまつわる資料を一般に公開する場であり、当基本事業の本旨をもっとも体現するものであるため。		
改善のため休廃止する事務事業名	休廃止する理由	
この基本事業の意図を達成するための、具体的な改善提案(改善内容、始期、終期等)		昨年度左欄に記入した改善提案(上)とその実施状況(下)
予算を伴わず 早急に実施可能な 改善提案		
短期的 (1～2年以内)に 実施可能な 改善提案		
中長期的 (概ね3～5年)に 実施可能な 改善提案	「武甲山図画・作文展」のあり方について、①妥当な事業主体②他の類似する展覧会との兼ね合い、の2つの課題を中心に、事業内容およびその継続について検討する。	児童・生徒の武甲山図画・作文展については、教育的見地から文化財保護の自主事業として実施しているが、図画・作文展については、他の類似事業もあることから、引き続き当課で実施することが良いのか検討する。 課内で幾度が検討しているが、未だ結論に至っていない。
改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー		

基本事業執行責任者 (担当課長名)	新井 和美	電話番号 0494-22-2481
----------------------	-------	----------------------

基本事業コード	20040004	担当課所名	文化財保護課
基本事業名 文化財調査事業			
総合振興計画	基本柱(章)	4	にぎわいと感動を呼ぶ「交流のまち」
	政策	3	心動かす芸術文化のまちづくり
	施策	2	歴史的資源の活用
			総合振興計画 114 ページ

基本事業の概要	秩父市内に今なお残る歴史的・文化的遺産を抽出し、変わることなく後世へ伝えられるように保護保存するための対策を講じる。
---------	--

対象	市内に点在する文化財や歴史的・学術的に価値のある物件、及び市内で開発行為を予定している業者
意図 (対象をどのようにしたいか)	歴史的・学術的資源の破壊・損失を未然に防ぎ、必要に応じて指定・登録・記録等の措置を講じる

基本事業指標	指標の算式	単位	23年度	評価年度(24年度)		26年度	他団体の指標(数値)
			過年度実績値	目標値	実績値	目標値	
当該年度における新規の文化財指定件数		件	0	1	0	1	

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

枝番号	事務事業名 (★=実施計画事業)	指標			24年度	単位	事務事業評価 26年度以降の 事業の方向性 コスト 成果	重点化
		事業費(円)			目標値(上段)			
		23年度決算額	24年度決算額	25年度予算額	実績値(下段)			
01	文化財保護審議委員会事業	指標	秩父市文化財保護審議委員会の開催回数	4	回	B		
		303,700	340,200	757,000	3	維持 拡充		
02	文化財調査・指定事業	指標	文化財指定を前提とした調査物件数	3	件	B		
		116,894	102,959	100,000	0	維持 拡充		
03	市内遺跡発掘調査事業	指標	埋蔵文化財所在確認調査実施箇所数	8	件	A		
		1,286,846	1,015,831	1,241,000	9	維持 維持		
04	埋蔵文化財包蔵地周知事業	指標	埋蔵文化財包蔵地新規登録・変更増補件数	3	件	A		
		0	0	0	1	維持 維持		
05		指標						
06		指標						
07		指標						
08		指標						
09		指標						
10		指標						
11		指標						
12		指標						
13	熊木遺跡第2次発掘調査事業	指標		1,920,000			◎	
14	椋神社の龍勢総合調査事業	指標		2,562,000			○	
(参考) 最終予算額(円)			2,059,000	2,199,000				
事業費の合計(円) (A)			1,707,440	1,458,990	6,580,000			

【重点化欄】

◎: 評価時点以降の事業の方向性(コスト・成果)の状況から、特に重点化する必要がある事業(1つ以内)

○: 重点化する必要がある事業(2つ以内)

成果の方向性	拡充	×	C, B	B, C	C
	維持	×	B	A	×
	縮小	×	C	×	×
	休廃止	D	×	×	×
	皆減 縮小 維持 拡大 コスト投入の方向性				

財源内訳	業務量	人件費(B)	
		23年度	24年度
国庫支出金	0.60人	500,000	500,000
県支出金		325,000	250,000
地方債		0	0
その他特定		0	0
一般財源	732,440	708,990	4,550,000
正規職員	0.60人	3,565,353	3,612,300
臨時職員 (事業費に含む)	4.00人	354,000	150,000
事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B)		5,272,793	5,071,290

◆評価◆

評価の視点	左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 基本事業の意図は適切か？また基本事業指標と目標値の設定は適切か？実績値に問題はないか？
基本事業指標の分析	本事業は、市内に残る歴史的・文化財資源を保存・活用するためにそれらを文化財を指定する事業と埋蔵文化財の調査事業が主体であり、ともに法律に基づいたものである。基本事業指標は、指定文化財の対象となり得る物件があった場合に達成できるものであり、毎年定期的に数値が現れるものでないことから、他の指標に比べると特殊ではあるが、本事業の根幹をなす部分であり適切であると考え。
基本事業を構成する事務事業の妥当性	基本事業指標を達成するために構成した事務事業に問題点はないか？ 本事業は意図を達成するために必要な調査を行なうもので、そのためにはいずれの事務事業もそこに必要不可欠なものである。
実施主体の妥当性	行政(国・県・市)・企業・市民・NPO等それぞれの実施主体は適切か？ 指定文化財・埋蔵文化財ともに、調査については法令や条例により地方自治体が担うこととなっており、市が関与することは適切である。

↓ Action

◆改善提案◆

新規に実施する事務事業名	事業の概要	
★熊木遺跡第2次発掘調査事業	市役所本庁舎建替え工事に伴い、新規に掘削を必要とする部分(建物の既存部分を除いた部分)について、埋蔵文化財の本発掘調査を実施する。	
★椋神社の龍勢総合調査事業	県指定無形民俗文化財「椋神社の龍勢」について、各方面からの総合的な調査を実施し、報告書を作成する。	
表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、重点化する事業として選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述 「熊木遺跡第2次発掘調査事業」は、事前に埋蔵文化財の確認調査を行なった結果に基づいて調査を実施するものであるが、このことは文化財保護法に則したものである。 また、椋神社の龍勢総合調査は、椋神社や龍勢の歴史・行事・伝承組織・製法・製作用具・伝承の背景となる信仰・文書史料等について調査を行なうことで、無形民俗文化財としての基本資料となる。		
改善のため休廃止する事務事業名	休廃止する理由	
この基本事業の意図を達成するための、具体的な改善提案(改善内容、始期、終期等)		昨年度左欄に記入した改善提案(上)とその実施状況(下)
予算を伴わず早急に実施可能な改善提案		
短期的(1～2年以内)に実施可能な改善提案		
中長期的(概ね3～5年)に実施可能な改善提案		
改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー		

基本事業執行責任者 (担当課長名)	新井 和美	電話番号 22-2481
----------------------	-------	-----------------

基本事業コード	20040005	担当課所名	文化財保護課
基本事業名	文化財管理事業		
総合振興計画 の位置づけ	基本柱(章)	4	にぎわいと感動を呼ぶ「交流のまち」
	政策	3	心動かす芸術文化のまちづくり
	施策	2	歴史的資源の活用
総合振興計画 114 ページ			

基本事業の概要	秩父に残る歴史的・文化的・学術的遺産が変わることなく後世へ伝承されるための、保護保存体制を整える。
---------	---

対象	文化財やそれに相当するもの、及びそれらの所有者や管理者
意図 (対象をどのようにしたいか)	文化財や自然環境の適正な保存・管理をする。

基本事業指標	指標の算式	単位	23年度	評価年度(24年度)		26年度	他団体の指標(数値)
			過年度実績値	目標値	実績値	目標値	
文化財指定解除件数		件	0	0	0	0	

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

枝番号	事務事業名 (★=実施計画事業)	指標			24年度	単位	事務事業評価 26年度以降の 事業の方向性 コスト成果	重点化			
		事業費(円)			目標値(上段)						
		23年度決算額	24年度決算額	25年度予算額	実績値(下段)						
01	ステゴビル保護管理事業	指標	ステゴビル保護管理に係る委託金額	10,000	10,000	10,000	10	千円	A	維持	維持
02	国指定天然記念物滅失事業	指標	天然記念物滅失届未提出率	0	0	0	0	%	A	維持	維持
03	文化財保護事務事業	指標	パートタイマー勤務時間数	1,262,010	1,254,502	1,432,000	1,177	時間	A	維持	維持
04	指定文化財通常管理事業	指標	指定文化財通常管理補助団体数	91,720	864,395	280,000	4	団体	A	維持	維持
05	文化財防災設備保守点検事業	指標	文化財防火設備保守点検補助団体数	126,529	263,554	127,000	6	団体	A	維持	維持
06	指定・登録文化財修理修復事業	指標	指定文化財修理事業補助団体数	338,050	1,354,125	166,000	4	団体	A	維持	維持
07	秩父祭笠鉾・屋台保護管理事業	指標	重要有形民俗文化財「秩父祭屋台6基」に係る事故件数	972,000	972,000	980,000	0	件	A	維持	維持
08	文化財防火点検・演習事業	指標	文化財防火演習参加者数	0	0	0	170	人	A	維持	維持
09	飯塚招木古墳管理整備事業	指標	飯塚・招木古墳群現存基数	250,000	250,000	250,000	129	基	A	維持	維持
10		指標									
11		指標									
12		指標									
13		指標									
14		指標									

(参考) 最終予算額(円)		3,428,000	5,271,000	
事業費の合計(円) (A)		3,050,309	4,968,576	3,245,000
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他特定一般財源	3,050,309	4,968,576	3,245,000
正規職員	業務量	0.30人	0.30人	
	人件費(B)	1,782,676	1,806,150	
臨時職員 (事業費に含む)	業務量	1.00人	1.00人	
	人件費	1,003,796	1,001,618	
事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B)		4,832,985	6,774,726	

【重点化欄】

◎: 評価時点以降の事業の方向性(コスト・成果)の状況から、特に重点化する必要がある事業(1つ以内)

○: 重点化する必要がある事業(2つ以内)

成果の方向性	拡充	×	C, B	B, C	C
	維持	×	B	A	×
	縮小	×	C	×	×
	休廃止	D	×	×	×
	皆減	縮小	維持	拡大	
		コスト投入の方向性			

◆評価◆

評価の視点	左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 基本事業の意図は適切か？また基本事業指標と目標値の設定は適切か？実績値に問題はないか？
基本事業指標の分析	この事業は、指定文化財の保護管理及び修理に主眼を置いている。文化財関係法令に基づいて必要な防火点検、修理修復、公開の保険は管理の上で重要であり、現在のところ文化財の現状変更に関わる事故はおきていない。
基本事業を構成する事務事業の妥当性	基本事業指標を達成するために構成した事務事業に問題点はないか？ この事務事業は、文化財の現状変更(消滅等)を回避するために設けたもので、妥当性がある。
実施主体の妥当性	行政(国・県・市)・企業・市民・NPO等それぞれの実施主体は適切か？ 指定文化財の管理であるため、実施主体は妥当である。

↓ Action

◆改善提案◆

新規に実施する事務事業名	事業の概要	
<p>表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、重点化する事業として選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述 国指定重要文化財の「内田家住宅」は軸部の傾斜や柱の根腐れなど住宅各部の老朽化の様相が著しく、現在、4ヶ年計画(平成25年秋から約3年間予定)で解体修理を行う予定である。秩父市としても国の指定を受けている唯一の建造物であり、解体修理の実施主体である所有者に対して支援していきたい。</p>		
改善のため休廃止する事務事業名	休廃止する理由	
この基本事業の意図を達成するための、具体的な改善提案(改善内容、始期、終期等)		昨年度左欄に記入した改善提案(上)とその実施状況(下)
予算を伴わず 早急に実施可能な 改善提案		
短期的 (1～2年以内)に 実施可能な 改善提案		
中長期的 (概ね3～5年)に 実施可能な 改善提案		
改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー		

基本事業執行責任者 (担当課長名)	新井 和美	電話番号 0494-22-2481
----------------------	-------	----------------------

基本事業コード	20040006	担当課所名	文化財保護課
基本事業名	文化財関係団体事業		
総合振興計画 位置づけ	基本柱(章)	4	にぎわいと感動を呼ぶ「交流のまち」
	政策	3	心動かす芸術文化のまちづくり
	施策	2	歴史的資源の活用
総合振興計画 114 ページ			

基本事業の概要	文化財関係団体との交流や研修会への参加により、文化財の保護保存のための有益な情報を獲得し、今後の施策に生かす。
---------	---

対象	市教育委員会文化財保護課職員、市文化財保護審議委員あるいは秩父祭笠鉾・屋台町会関係者
意図 (対象をどのようにしたいか)	文化財に対する知識を高め、会議・研修等で習得したものを文化財の保護保存に役立てる

基本事業指標	指標の算式	単位	23年度	評価年度(24年度)		26年度	他団体の指標(数値)
			過年度実績値	目標値	実績値	目標値	
負担金支出団体		団体	3	3	3	2	

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

枝番号	事務事業名 (★=実施計画事業)	指標			24年度	単位	事務事業評価 26年度以降の 事業の方向性 コスト 成果	重点化
		事業費(円)			目標値(上段)			
		23年度決算額	24年度決算額	25年度予算額	実績値(下段)			
01	全国山・鉾・屋台保存連合会事業	指標	全国山鉾連合会の会議・研修会への延べ参加回数	3	3	回	A	
		26,600	26,600	27,000	3		維持	維持
02	秩父地区文化財保護協会事業	指標	秩父地区文化財保護協会総会・研修会への延べ出席回数	2	2	回	A	
		81,000	80,000	80,000	2		維持	維持
03	埼玉県文化財保護協会事業	指標	埼玉県文化財保護協会評議員会・研修会への延べ出席人数	5	9	人	A	
		20,000	20,000	20,000	9		維持	維持
04	県文化財主管課長・担当者連絡協議会事業	指標	県文化財主管課長・担当者会議への延べ出席回数	2	1	回	A	
		14,300	26,690	30,000	1		維持	維持
05	埼玉県地域史料保存活用連絡協議会事業	指標	埼玉県地域史料保存活用連絡協議会への延べ出席回数	2	0	回	C	
		10,000	10,000	10,000	0		縮小	縮小
06		指標						
07		指標						
08		指標						
09		指標						
10		指標						
11		指標						
12		指標						
13		指標						
14		指標						

(参考) 最終予算額(円)		168,000	167,000
事業費の合計(円) (A)		151,900	163,290
財源内訳	国庫支出金	0	0
	県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他特定	0	0
	一般財源	151,900	163,290
正規職員	業務量	0.90人	0.90人
	人件費(B)	5,348,030	5,418,450
臨時職員 (事業費に含む)	業務量	0.00人	0.00人
	人件費	0	0
事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B)		5,499,930	5,581,740

【重点化欄】

◎: 評価時点以降の事業の方向性(コスト・成果)の状況から、特に重点化する必要がある事業(1つ以内)

○: 重点化する必要がある事業(2つ以内)

成果の方向性	拡充	×	C, B	B, C	C
	維持	×	B	A	×
	縮小	×	C	×	×
	休廃止	D	×	×	×
	皆減	縮小	維持	拡大	
		コスト投入の方向性			

◆評価◆

評価の視点	左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 基本事業の意図は適切か？また基本事業指標と目標値の設定は適切か？実績値に問題はないか？
基本事業指標の分析	この事業は、市文化財保護審議委員会・文化財保護課職員等が文化財関係団体の交流や研修会へ参加することにより、文化財の保護保存のための情報を獲得し、今後の施策に生かすための事業である。各団体・協議会で実施している事業は、貴重な研修の場となっている。
基本事業を構成する事務事業の妥当性	基本事業指標を達成するために構成した事務事業に問題点はないか？ 05埼玉県地域史料保存活用連絡協議会事業については、『秩父市史』の編纂は図書館で、『大滝村誌』は(大滝公民館・文化財保護費)で実施して平成22年度に発刊していることから、今後、関係部局と調整のうえ当協議会の加入の継続について検討を要する。ただし、05埼玉県地域史料保存活用連絡協議会事業のように、必ずしも文化財保護部局の業務に直結しない団体等については、担当部局等の見直しを図ることも必要である。
実施主体の妥当性	行政(国・県・市)・企業・市民・NPO等それぞれの実施主体は適切か？ 文化財保護について広く周知することは、文化財保護行政の役割の一つであり、この事業の対象が秩父祭笠鉾・屋台関係者や市文化財保護審議委員会委員となっていることから、市が関与する必要があり、妥当である。

↓ Action

◆改善提案◆

新規に実施する事務事業名	事業の概要
表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、重点化する事業として選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述文化財の保護・保存のためにそれぞれ必要な団体であり、今後も引き続き加入していく必要があるため、特に重点化する事業は定めない。	
改善のため休廃止する事務事業名	休廃止する理由
この基本事業の意図を達成するための、具体的な改善提案(改善内容、始期、終期等)	
予算を伴わず早急に実施可能な改善提案	昨年度左欄に記入した改善提案(上)とその実施状況(下) 埼玉県地域史料保存活用連絡協議会については、今後、関係部局と調整の上、担当部局の確認あるいは当協議会の加入の継続について検討する。 24年度については、担当部局の変更などの検討ができなかった。今後も引き続き、短期的に実施可能な検討課題としていく。
短期的(1~2年以内)に実施可能な改善提案	埼玉県地域史料保存活用連絡協議会については、担当部局の見直しも視野に入れつつ検討を行う。
中長期的(概ね3~5年)に実施可能な改善提案	県文化財保護協会・地区文化財保護協会については、市文化財行政への影響力等を経過的に見ながら、どのように関わっていくかを検討する。 市独自で文化財保護に関する研修会を開くことは難しく、県文化財保護協会や、地区文化財保護協会の研修会は有益な情報を得る貴重な場となっている。そのため、今後も継続してこの場を活用していきたい。
改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー	

基本事業執行責任者 (担当課長名)	新井 和美	電話番号 0494-22-2481
----------------------	-------	----------------------

基本事業コード	20040007	担当課所名	文化財保護課
基本事業名	文化財市所管施設管理事業		
総合振興計画 位置づけ	基本柱(章)	4	にぎわいと感動を呼ぶ「交流のまち」
	政策	3	心動かす芸術文化のまちづくり
	施策	2	歴史的資源の活用
			総合振興計画 114 ページ

基本事業の概要 市で所管している文化財保存施設及び指定・登録有形文化財(建造物)の管理を通して、文化財の保護保存と活用を図る。

対象 市が所管している文化財施設(旧川俣小学校・大野家住宅・市指定有形文化財内田家住宅・旧秩父駅舎・旧吉田歴史民俗資料館)

意図 (対象をどのようにしたいか) 建物や収蔵する資料を保護保存するとともに、施設としての活用を目指す

基本事業指標	指標の算式	単位	23年度	評価年度(24年度)		26年度	他団体の指標(数値)
			過年度実績値	目標値	実績値	目標値	
施設の状況調査		回	40	25	35	30	

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

枝番号	事務事業名 (★=実施計画事業)	指標			24年度	単位	事務事業評価 26年度以降の 事業の方向性 コスト成果	重点化	
		事業費(円)			目標値(上段)				
		23年度決算額	24年度決算額	25年度予算額	実績値(下段)				
01	旧川俣小学校・旧浦山中学校管理事業	指標 現地状況確認回数	3,850	17,641	18,000	5	回	A	
02	大野家住宅管理事業	指標 現地状況確認回数	32,903	34,159	47,000	5	回	C	
03	市指定内田家住宅管理事業	指標 現地状況確認回数	1,062,369	1,049,488	4,086,000	10	回	A	◎
04	旧秩父駅舎管理事業	指標 現地状況確認回数	734,058	458,249	1,673,000	10	回	A	
05	旧吉田歴史民俗資料館管理事業	指標 現地状況確認回数	0	15,000	15,000	3	回	A	
06	旧秩父駅舎公開事業	指標 旧秩父駅舎利用者	297,657	352,014	391,000	1,500	人	B	
07	秩父祭屋台収蔵庫修理事業	指標 収蔵庫修理件数	493,500	189,000	0	1	基	A	
08	★ 市指定有形文化財内田家住宅長屋門修理工事	指標 進捗状況	0	2,814,000		30	%	A	
09		指標							
10		指標							
11		指標							
12		指標							
13		指標							
14		指標							

(参考) 最終予算額(円)		2,867,000	5,350,000	
事業費の合計(円) (A)		2,624,337	4,929,551	6,230,000
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他特定一般財源	2,624,337	4,929,551	6,230,000
正規職員	業務量	0.40人	0.40人	
	人件費(B)	2,376,902	2,408,200	
臨時職員 (事業費に含む)	業務量	0.00人	0.00人	
	人件費	0	0	
事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B)		5,001,239	7,337,751	

【重点化欄】

◎: 評価時点以降の事業の方向性(コスト・成果)の状況から、特に重点化する必要がある事業(1つ以内)

○: 重点化する必要がある事業(2つ以内)

成果の方向性	拡充	×	C, B	B, C	C
	維持	×	B	A	×
	縮小	×	C	×	×
	休廃止	D	×	×	×
	皆減	縮小	維持	拡大	コスト投入の方向性

◆評価◆

評価の視点	左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 基本事業の意図は適切か？また基本事業指標と目標値の設定は適切か？実績値に問題は無いかな？
基本事業指標の分析	この事業は、有形文化財(建造物)である内田家住宅・旧秩父駅舎の管理、資料の収蔵施設として使用している旧川俣小学校・旧浦山中学校・大野家住宅・旧吉田歴史民俗資料館を管理することにより、文化財や資料を後世に伝えることを目的として管理している。内田家・旧秩父駅舎の施設及び収蔵資料の活用については、文化財活用公開事業で行っていることから、基本事業指標と目標値は適切に設定されている。
基本事業を構成する事務事業の妥当性	基本事業指標を達成するために構成した事務事業に問題点はないか？ 市で所有する文化財(建造物)管理については、施設の保存とともに見学者の安全を確保するため計画的な整備計画(内田家住宅)のもと実施していることから、事務事業の指標に位置づける必要がある。一方で、民俗資料の収蔵施設である旧川俣小学校・旧浦山中学校については、人員の不在等により警備が十分とは言い難い。
実施主体の妥当性	行政(国・県・市)・企業・市民・NPO等それぞれの実施主体は適切か？ 大野家住宅は、毎年、文化財保持団体の倉庫兼作業場として行政財産使用を許可して使用させている状況であり、将来的には施設の管理のあり方について、検討を要する。

↓ Action

◆改善提案◆

新規に実施する事務事業名	事業の概要	
表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、重点化する事業として選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述 市指定文化財の内田家住宅は、和銅遺跡を中心として黒谷地区の拠点施設であり、多くの人が施設の見学や周辺の見学のための駐車場として活用している。後世から受け継がれた貴重な文化財を適切に管理し、秩父の歴史に対する理解を深めてもらうため、定期的に麦わら屋根の修理を実施する。 また、24年度から長屋門の修理を3か年で実施している。		
改善のため休廃止する事務事業名	休廃止する理由	
この基本事業の意図を達成するための、具体的な改善提案(改善内容、始期、終期等)		
予算を伴わず早急に実施可能な改善提案		昨年度左欄に記入した改善提案(上)とその実施状況(下)
短期的(1~2年以内)に実施可能な改善提案	旧川俣小学校・旧浦山中学校については、人員の不在等により警備が不十分なままであるが、警備に万全を期すとともに、地域住民・関係機関の協力を得ながら管理を行う。	人員の不在等により警備が不十分である旧川俣小学校・旧浦山中学校については、有効な対処手段を検討し、実行する。また、大野家住宅については、移管を含めて施設管理のあり方を検討する。 旧浦山中学校においては、不法侵入者を防ぐため、コンパネを取り付けるなどの対策を講じた。
中長期的(概ね3~5年)に実施可能な改善提案	引き続き、大野家住宅については、移管を含めて施設管理のあり方を検討する。	
改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー		

基本事業執行責任者 (担当課長名)	新井 和美	電話番号 0494-22-2481
----------------------	-------	----------------------

基本事業コード	20040008	担当課所名	文化財保護課
基本事業名	秩父祭笠鉾屋台修理事業		
総合振興計画 位置づけ	基本柱(章)	4	にぎわいと感動を呼ぶ「交流のまち」
	政策	3	心動かす芸術文化のまちづくり
	施策	2	歴史的資源の活用
			総合振興計画 114 ページ

基本事業の概要	国庫補助を受けて、重要有形民俗文化財に指定された秩父祭笠鉾・屋台の保存修理工事を実施する。
---------	---

対象	重要有形民俗文化財「秩父祭屋台6基」
意図 (対象をどのようにしたいか)	部材等の修理工事を行なって保護保存を図る

基本事業指標	指標の算式	単位	23年度	評価年度(24年度)		26年度	他団体の指標(数値)
			過年度実績値	目標値	実績値	目標値	
当該年度における秩父祭笠鉾・屋台修理台数		台	1.	2.	2.	1.	

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

枝番号	事務事業名 (★=実施計画事業)	指標			24年度	単位	事務事業評価 26年度以降の 事業の方向性 コスト 成果	重点化
		事業費(円)			目標値(上段)			
		23年度決算額	24年度決算額	25年度予算額	実績値(下段)			
01	★ 秩父祭笠鉾・屋台修理工事事業	指標	当該年度における秩父祭笠鉾・屋台修理台数	2.	台	A		
		25,162,570	16,802,446	23,762,000	2.	維持 維持		
02		指標						
03		指標						
04		指標						
05		指標						
06		指標						
07		指標						
08		指標						
09		指標						
10		指標						
11		指標						
12		指標						
13		指標						
14		指標						

(参考) 最終予算額(円)	25,180,000	16,825,000		
事業費の合計(円) (A)	25,162,570	16,802,446	23,762,000	
財源内訳	国庫支出金	12,580,000	8,400,000	11,869,000
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他特定	0	0	0
	一般財源	12,582,570	8,402,446	11,893,000
正規職員	業務量	0.30人	0.30人	
	人件費(B)	1,782,676	1,806,150	
臨時職員 (事業費に含む)	業務量	0.00人	0.00人	
	人件費	0	0	
事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B)	26,945,246	18,608,596		

【重点化欄】

◎: 評価時点以降の事業の方向性(コスト・成果)の状況から、特に重点化する必要がある事業(1つ以内)

○: 重点化する必要がある事業(2つ以内)

成果の方向性	拡充	×	C, B	B, C	C
	維持	×	B	A	×
	縮小	×	C	×	×
	休廃止	D	×	×	×
	皆減	縮小	維持	拡大	コスト投入の方向性

◆評価◆

評価の視点	左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 基本事業の意図は適切か？また基本事業指標と目標値の設定は適切か？実績値に問題はないか？
基本事業指標の分析	この事業は、重要有形民俗文化財「秩父祭屋台6基」の国庫補助事業の保存修理事業であり、笠鉾・屋台は歴史的遺産(文化財)として、また観光資源として位置づけられており、保護保存のため、祭礼時の運行の安全のためにも修理が必要である。
基本事業を構成する事務事業の妥当性	基本事業指標を達成するために構成した事務事業に問題点はないか？ 秩父祭の行事を行なう上で、安全管理と文化財の品格を維持するため、秩父祭笠鉾・屋台を定期的に修理しなくてはならない。
実施主体の妥当性	行政(国・県・市)・企業・市民・NPO等それぞれの実施主体は適切か？ 笠鉾・屋台の所有者は各屋台町会であるが、計画的な修理計画の作成、文化財保護のための修理の監督、そして、文化財保護法の規定による「管理団体」が秩父市に選任されている点など、公共性が高い事業である。なお、修理工事の費用は、総計の50%が国庫補助、50%が管理団体である秩父市の負担となっている。



Action

◆改善提案◆

新規に実施する事務事業名	事業の概要	
表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、重点化する事業として選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述		
改善のため休廃止する事務事業名	休廃止する理由	
この基本事業の意図を達成するための、具体的な改善提案(改善内容、始期、終期等)		昨年度左欄に記入した改善提案(上)とその実施状況(下)
予算を伴わず 早急に実施可能な 改善提案		
短期的 (1～2年以内)に 実施可能な 改善提案		
中長期的 (概ね3～5年)に 実施可能な 改善提案		
改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー		

基本事業執行責任者 (担当課長名)	新井 和美	電話番号 0494-22-2481
----------------------	-------	----------------------

基本事業コード	20040009	担当課所名	文化財保護課
基本事業名	資料館運営事業		
総合振興計画 の位置づけ	基本柱(章)	4	にぎわいと感動を呼ぶ「交流のまち」
	政策	3	心動かす芸術文化のまちづくり
	施策	2	歴史的資源の活用
			総合振興計画 114 ページ

基本事業の概要	浦山・大滝・荒川の各歴史民俗資料館及び武甲山資料館の管理運営を行ない、各館で所蔵する歴史・民俗・自然に関する資料を保護保存するとともに、企画展等を開催して資料の活用を図る。
---------	--

対象	市民及び来訪者
意図 (対象をどのようにしたいか)	秩父の歴史や民俗文化、自然について知ってもらう

基本事業指標	指標の算式	単位	23年度	評価年度(24年度)		26年度	他団体の指標(数値)
			過年度実績値	目標値	実績値	目標値	
市立歴史民俗資料館入館者数 総計	(浦山)+(大滝)+(荒川)	人	6,707.	10,000.	7,175.	10,000.	
大滝歴史民俗資料館入館料総計		円	165,000.	224,800.	132,300.	132,000.	
武甲山資料館入館者数		人	4,929.	6,000.	5,494.	6,000.	

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

枝番号	事務事業名 (★=実施計画事業)	指標			24年度	単位	事務事業評価 26年度以降の 事業の方向性 コスト 成果	重点化
		事業費(円)			目標値(上段)			
		23年度決算額	24年度決算額	25年度予算額	実績値(下段)			
01	浦山歴史民俗資料館運営事業	指標 年間入館者数			6,000.	人	A 維持 維持	◎
		4,133,000	4,130,000	4,130,000	4,161.			
02	大滝歴史民俗資料館用務業務委託事業	指標 年間入館者数			1,500.	人	A 維持 拡充	
		2,102,129	2,435,778	2,136,000	1,092.			
03	荒川歴史民俗資料館管理事業	指標 年間入館者数			2,500.	人	A 維持 維持	
		5,025,557	4,357,993	4,472,000	1,922.			
04	企画展開催事業	指標 企画展の開催回数			3.	回	A 維持 維持	
		139,951	130,750	169,000	3.			
05	武甲山資料館運営事業	指標 年間入館者数			6,000.	人	A 維持 維持	
		6,000,000	6,000,000	6,000,000	5,494.			
06		指標						
07		指標						
08		指標						
09		指標						
10		指標						
11		指標						
12		指標						
13		指標						
14	民俗資料整理活用事業	指標						
		5,328,773						

(参考) 最終予算額(円)		22,889,000	17,152,000	
事業費の合計(円) (A)		22,729,410	17,054,521	16,907,000
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他特定	5,844,762	5,886,643	6,110,000
	一般財源	16,884,648	11,167,878	10,797,000
正規職員	業務量	0.40人	0.40人	
	人件費(B)	2,376,902	2,408,200	
臨時職員 (事業費に含む)	業務量	1.00人	1.00人	
	人件費	1,272,000	1,272,000	
事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B)		25,106,312	19,462,721	

【重点化欄】

◎: 評価時点以降の事業の方向性(コスト・成果)の状況から、特に重点化する必要がある事業(1つ以内)

○: 重点化する必要がある事業(2つ以内)

成果の方向性	拡充	×	C,B	B,C	C
	維持	×	B	A	×
	縮小	×	C	×	×
	休廃止	D	×	×	×
	皆減	縮小	維持	拡大	
		コスト投入の方向性			

◆評価◆

評価の視点	左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 基本事業の意図は適切か？また基本事業指標と目標値の設定は適切か？実績値に問題はないか？
基本事業指標の分析	浦山・大滝・荒川の各歴史民俗資料館及び武甲山資料館において資料を保存、展示、公開し、資料の活用を図ることを目的とし、基本事業指数を入館者数に設定した。館全体として入館者数が目標値を下回っていた。荒川資料館で実施している企画展開催事業は、館が無料施設のため常設展と企画展での入館者の区別が難しいことから、目標値を企画展開催数としている。この目標値では、企画展の成果を把握しづらいことから管理事業に一本化するなど検討を要する。
基本事業を構成する事務事業の妥当性	基本事業指標を達成するために構成した事務事業に問題点はないか？ 市民及び来訪者に秩父の歴史や民俗文化、自然について知ってもらうことを意図としていることから、基本事業を構成する事務事業は、妥当性が認められる。 各館では、誘客のための対策が課題となっているが、各歴史民俗資料館のあり方やより多くの人に資料を活用してもらう方法などを含めて検討する必要がある。
実施主体の妥当性	行政(国・県・市)・企業・市民・NPO等それぞれの実施主体は適切か？ 荒川歴史民俗資料館は市の直営で運営しており、浦山歴史民俗資料館は指定管理者に、大滝歴史民俗資料館は企業に、武甲山資料館は団体に委託している。大滝歴史民俗資料館では、入館料を徴収しており、指定管理者制度を導入することにより入館料が指定管理者の歳入になるなど、指定管理者の経営努力が反映される。加えて、武甲山資料館は管理・運営に際してセメント各社より寄附金が入っている。これらのことは、市の歳出の削減にもつながると考えられる。

↓ Action

◆改善提案◆

新規に実施する事務事業名	事業の概要	
表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、重点化する事業として選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述 浦山歴史民俗資料館では、近年、入館者数の減少がみられる。平成26年には午歳の総開帳もあることから、資料館のPRに努める。		
改善のため休廃止する事務事業名	休廃止する理由	
この基本事業の意図を達成するための、具体的な改善提案(改善内容、始期、終期等)		昨年度左欄に記入した改善提案(上)とその実施状況(下)
予算を伴わず 早急に実施可能な 改善提案		
短期的 (1～2年以内)に 実施可能な 改善提案		
中長期的 (概ね3～5年)に 実施可能な 改善提案	荒川歴史民俗資料館と大滝歴史民俗資料館は、建物の経年劣化が進んでおり、毎年修理費がかかるようになってきたので、資料館の設置について統廃合を含めて検討したい。	荒川歴史民俗資料館と大滝歴史民俗資料館は、建物の経年劣化が進んでおり、毎年修理費がかかるようになってきたので、資料館の設置について統廃合を含めて検討したい。 引き続き検討する。
改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー		

基本事業執行責任者 (担当課長名)	新井 和美	電話番号 0494-22-2481
----------------------	-------	----------------------